

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室

TEL 0886-56-7129 FAX: 0886-56-7112 (共通教育事務室)

E-mail: (E-Mail address deleted)

URL [./../index.html](http://www.jae-cs.ac.jp/index.html)

郵便振替口座 00940-5-250586(英語コーパス学会)

1. [第15回大会のご案内](#)
2. [『英語コーパス研究』第7号編集進捗状況](#)
3. [東支部設立準備委員会活動報告](#)
4. [Prof. Leechの講演の録音テープとTranscriptionの配布について](#)
5. [訃報](#)
6. [新入会員紹介](#)
7. [事務局から](#)

1. 第15回大会のご案内

英語コーパス学会第15回大会は、4月22日(土)に山陽学園大学(〒703-8501 岡山市平井1丁目14番1号 JR岡山駅バスターミナル「9番のりば」より両備バスの天満屋・山陽大学経由「新岡山港」「桑野営業所」「ふれあいセンター」行きのいずれかに乗車。山陽学園大学・短大前」にて下車、徒歩3分。詳細は<http://www.sguc.ac.jp>を参照)で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と能登原昭夫大会実行委員のご尽力に感謝いたします。

大会プログラムとレジメを同封いたしますが、今大会は研究発表1セッションとシンポジウムを組みました。研究発表には堀井祐介先生(大阪大学言語文化部)の古ノルド語コーパスの編纂、コンコーダンスと動詞データベースの作成、それらを使用した分析について、大谷啓明さん(東大総合文化研究科言語情報科学博士課程)の母語話者における文や節の境界を越えたトピック関連語(句)の反復パターンの分析、五百蔵高浩先生(高知女子大学)による動詞形成接辞の異形態の選択と音韻論的制約に関する研究の3件をお願いしました。堀井先生の発表は直接英語の分析とは関連しませんが、コーパス編纂とその利用に関しての示唆や、英語の通時的分析に関わる多くの示唆が得られるものと思われまます。大谷さんの発表では学習者コーパスが、五百蔵先生の発表では電子辞書も利用されていますので、方法論的にも変化に富んだ内容となります。ご期待ください。

この1年ほど大会を締めくくるプログラムとして特別講演を立ててきましたが、今大会では久々にシンポジウムを準備しました。Quirk, et al. (1985) A Comprehensive Grammar of the English Language に匹敵し、それを補完する形でコーパスに基づいたBiber, et al., Longman Grammar of Spoken and Written Englishが昨年夏出版されたことは、既に周知の事実ですので、会員諸氏の中にも目を通された方が多いと思います。「Biber et al., Longman Grammar of Spoken and Written Englishを読む」と題したこのシンポジウムでは、様々な視点からこの大著

に挑戦することになりました。非常にタイムリーな企画ですので、ご期待ください。司会とこの本の概略を紹介する部分の講師には発案者の赤野一郎先生(京都外国語大学)をお願いし、他に3組の講師陣に加わっていただきました。深谷輝彦先生(椋山女学園大学)に「文法論の視点から」、井上永幸先生(島根大学)に「語法研究・辞書学の視点から」、須賀廣先生(高梁工業高等学校)・鷹家秀史先生(岡山朝日高等学校)に「英語教育の視点から」と題してご発表いただきます。1月下旬の大会準備委員会でこのシンポジウムが決定されて以来、講師間の連絡用のMailing Listを井上先生に作成していただき、司会の赤野先生を中心に活発な議論を重ねてきました。大会当日にはその成果が遺憾無く発揮されることと思います。なお、ハンドアウトを冊子化することも検討されています。

午前中のワークショップでは、事務局の中村純作(徳島大学)が「コーパス研究のための初歩の統計: Excelによるカイ自乗検定」と題して、カイ自乗検定の原理の説明と計算の実際をMicrosoft Excel for Windows使ってデモンストレーションする予定です。Excelの基礎知識(データの入力程度)を前提としますが、助手を数名お願いいたしますので全くの初心者でも参加可能です。コーパスを利用した英語研究では「数」を問題にすることがよくありますが、実際に得られた数値データが意味のあるものかどうかを客観的に判断する必要がありますので、学会発足時から、統計処理に関するワークショップに対して強い要望がありました。今回初めてこの種のワークショップを実施することになりましたが、できれば、従来型のコーパス検索に関するワークショップと共に、平均値の差の検定、相関分析、クラスター分析なども順次取り上げることができればと思っています。講師として、これらのワークショップにご協力いただける先生方のお申し出をお待ちしております。今回のワークショップに参加希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込みください。先着30名(予定)で締め切らせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です。(非会員の場合は参加費1,000円)なお、ワークショップ参加の会員諸氏には当日の昼食に弁当を準備したいと思っております。ワークショップへの参加希望を申し出る際に、弁当が必要かどうかもお知らせください。

→[目次へ](#)

2. 『英語コーパス研究』第7号編集進捗状況

『英語コーパス研究』第7号(2000)への投稿状況につきましては、前号のニューズレターでお知らせしたとおりですが、その後の進捗状況は以下のとおりです。

○採用?論文:2名〔Leech氏は除く〕, 研究ノート:

1名, 書評:2名, 図書紹介:1名

○不採用?4名

○辞退?2名

現在、査読作業はほとんど終わり、編集作業に入っているところです。審査員の先生方には、学年末を控えたお忙しい時期に査読作業を快く引き受けていただき、懇切丁寧なご助言を賜りました。この場を借りまして、厚くお礼申し上げます。発刊まで後わずかとなりましたが、編集委員一同、最善を尽くす所存でございますので、引き続きご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

『英語コーパス研究』編集委員会

→[目次へ](#)

3. 東支部設立準備委員会活動報告

東支部設立準備委員会が発足して、この1年設立準備委員が数回会議を重ね、今後の東支部の運営・活動方針を話し合ったり、ワークショップを開催して院生や未会員への教育活動を展開してきました。第1回目のワークショップは、すでに報告しましたように日本大学生産工学部実務校舎で開催され、盛会でした。ここに第2回目のワークショップの報告をいたします。大東文化大学板橋校舎で平成11年11月27日(土)に「コンピュータを利用した英語研究」というタイトルで開催し、25名の参加者があり、その参加者の殆どが未会員の学部生と院生、さらに高校教員でした。第一部「英語教師とインターネット: インターネットは巨大な英語データベース」(講師: 吉村由佳)では、英語教師にとって役立つ情報とインターネットの検索方法を学びました。第二部「英語教師のためのやさしいデータ分析入門: エクセルを使った統計処理の基礎」(講師: 山内豊)では、英語教育と統計の観点からエクセルを使った統計処理の方法を行い、t検定、相関係数、分散分析、カイ二乗検定等を実習しました。大変残念ではありましたが、時間の関係で重回帰分析、因子分析、数量化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類等は網羅できませんでした。最後に参加者にアンケートをお願いしたら、もっと統計処理に関する講習会を開催して欲しいという要望や、夏休みに有料の数

日にわたる宿泊形式の講習会を開催して欲しいという要望があり、実施に向けて検討したいと思っております。

<2000年度東支部活動予定>

まず初めに、コンピュータを利用した英語教育・研究のためのコーパス利用に関するより効果的な広報活動を展開し、より多くの学部生、院生、英語教員、そして一般の未会員の学会加入を目的とした講習会を開催する予定です。講習会の具体的な実施については、年2回くらいを目途にまず7月末に2日か3日程度の宿泊を伴う講習会が開催できればと考えています。参加費用は5,000円(学生3,000円)、宿泊(大東文化大学の会館の場合、一泊2,500円)は実費で、内容としてインターネットの実践的な利用方法や、KWIC、Wordsmith等いくつかの検索ソフトを使って、言語解析を初歩から始め、どのような結果が出て、それをどのように利用できるのかという一連の研究方法を扱う予定です。さらに、希望者が多いので統計処理の方法に関する講習も、指導者を探して開催したいと思っています。二回目は11月頃に、従来行ってきたようなコンピュータ講習会を開き、英語教育・研究にコンピュータがいかに利用できるのかの広報・教育活動を行う予定です。

山崎俊次(大東文化大学)

→[目次へ](#)

4. Prof. Leechの講演の録音テープとTranscriptionの配布について

昨年秋、日本大学生産工学部で開催されたJAECS第14回大会ではランカスター大学のProf. Geoffrey Leechに“Corpus Linguistics and the BNC”と題して特別講演をお願いしました。その後、講演内容を会誌『英語コーパス研究』に寄稿して頂けることになり、この春刊行の第7号に“Corpus Linguistics and the British National Corpus”のタイトルで掲載される予定になっています。Leech先生に執筆を依頼する際に、事務局では講演の録音テープからTranscriptionを作成しました。学生を動員し、学会の費用を使って作業を行いました。この折りに、「大会に参加していなかった会員にも是非講演の雰囲気を感じて貰いたいので、テープとTranscriptionを配布してもよいか」と伺ったところ、快く依頼に応じて頂きました。

講演の要旨は会誌に掲載されますが、コーパス編纂の際の苦労話や裏話が、Leech先生の言葉を通して直接楽しめます。それ以外にも、コーパス言語学のゼミで利用したり、特に留学を希望する学生を指導している先生方には、英語の聴解力の目安にもなると思います。録音状態はそれほどよくありませんが、ご希望の方は事務局までご一報下さい。郵送料、テープ代金などの実費で配布致します。

→[目次へ](#)

5. 訃報

すでに、JAECS-MLを通じて藤本和子先生(椋山女学園大学)が、この年末にお亡くなりになったことを、ご存知の先生方も多いことと思います。同僚の深谷輝彦先生がMLで個人消息として配信されたメールを、ここに転載させて頂きます。

JAECSのみなさま

新年早々ながら悲しいお知らせをしなければなりません。本学会の運営委員であり、若手のコーパス英語学研究者として活躍されていた藤本和子先生(椋山女学園大学)が昨年12月31日にくも膜下出血で倒れ他界されました。

藤本先生は『英語コーパス研究』の1号に赤野先生と共著で「コーパスに見られる分詞構文」、3号に「談話辞I meanの用法について」という論文を発表されています。椋山では所属されていた文学部の情報教育、英語教育の中心メンバーとして丁寧

に学生指導をされていました。また辞書関係の仕事にも精力を注がれ、お忙しいにもかかわらずいつも笑顔を決やさず、学生、同僚のために時間をさいていました。名古屋ではLEXIGRAMというコーパス語法・文法関係の研究会に属し、口語英語表現研究に取り組んでいました。この4月からは大修館の『英語教育』誌上で連載がはじまる「英文法とコーパスの接点」にも寄稿される予定になっていました。本当に大切な同僚、研究仲間を失ってしまいました。

末筆ながら藤本先生のご冥福をただ祈るばかりです。

深谷 輝彦

深谷先生もお書きになっているように、藤本先生は本学会の一会員として活発に活動されていただけでなく、学会発足当時から運営委員あるいは会誌の論文審査委員として、学会の運営に深く貢献されていました。また、1昨年秋、相山女学園大学で開かれたJAECS第12回大会では、深谷先生、三木先生とともに大会実行委員として大会の準備、運営にあたられました。統計処理に関するワークショップが始まった矢先に、有望な講師の一人を失ってしまったという思いです。本誌上を借り、つつしんでご冥福をお祈りします。

なお、事務局から御家族あてに心ばかりのご香典をお送りしました。

→[目次へ](#)

6. 新入会員紹介(住所・電話番号は、郵送されるニューズレターをご参照ください)

JAECS Newsletter No. 27発行以降の新入会員の方は次の通りです(3月10日現在、敬称略)

池田 拓朗(青山学院大学(名誉教授))

見目(けんもく) 卓之(大東文化大学学生)
(E-Mail address deleted)

堀井 祐介(大阪大学)
(E-Mail address deleted)

→[目次へ](#)

7. 事務局から

◇会費値上げと納入のお願い

JAECS Newsletter No. 27でお知らせしましたように来年度より年会費を値上げさせていただくことを、秋の大会時の運営委員会で認めて頂きました。

最大の理由は、今まで経費節減のため会誌編集委員会に版下作りまでお願いしていた編集作業を、業者にフロッピー依託することにより軽減することにあります。会誌のバックナンバーをご覧になって頂ければわかりますが、あのような立派な出来栄にするには、編集委員長をはじめ編集委員全員の大変な努力を必要としておりました。版下作りなどは本来業者に依託できる部分ですので、少しでも負担を軽減し、編集委員会には本来の編集業務に専念してもらいたいというのが事務局の意向です。この他にも、上の「東支部設立準備委員会活動報告」にもありますように、関東地区での活動が活発になり、来年度には東支部を設立することも秋の運営委員会です承を頂いております。会員獲得を目標にした様々な活動に伴う支出も増えることが予想されます。

会費値上げに関しては、この4月22日の山陽学園大学での第15回大会時の総会にお諮りし、お認め頂くことにしておりますが、来年度より一般会費5,000円、学生会費4,000円、賛助会費15,000円となります。大会時にも納入可能ですが、当日の事務の混乱を避けるため郵便振替用紙を同封致しますので、事前にお納め頂ければ幸いです。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。1999年度会費未納の方は合わせてお納めください。2年続けて会費未納の場合、JAECS Newsletter等の送付を中止させていただきます。なお、所属、住所、電話番号などの変更がございましたら、合わせてお知らせ下さい。

◇山陽学園大学へのアクセスについて

冒頭の「第15回大会のご案内」でも述べましたように、山陽学園大学へは、JR岡山駅バスターミナル「9番のりば」より両備バスの天満屋・山陽大学経由「新岡山港」「桑野営業所」「ふれあいセンター」行きのいずれかに乗車して下さい。日中は約10分おきに出ています。20分～25分で「山陽学園大学・短大前」に着きますので、下車、徒歩2～3分です。なお、タクシーを利用する場合は約10分、1,800円程度です。

◇JAECSのLogotypeについて

JAECS Newsletter No. 27 で、Logotypeのデザインが決定されたことをお知らせしましたが、作者が専門のグラフィックデザイナーであり、特殊なアプリケーションソフトを使用していることもあって、Word等の文書に簡単に組み込めません。現在その方法を検討中ですので、もう少しお待ち頂ければと思います。できるだけ早い機会にNews-letterのHeadに使用するつもりです。

◇その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

→[目次へ](#)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ 英語コーパス言語学を1年間教えて

大東文化大学外国語学部 齊藤 俊雄

(E-Mail address deleted)

(E-Mail address deleted)

昨年のニューズレターに赤野一郎京都外国語大学教授の英語コーパス言語学の授業についての報告があり、大変興味深く読みました。今度、事務局の方から、私の経験を書くように依頼があったので、本年度の授業について簡単な報告をします。

私は本年度、大東文化大学の大学院および学部の授業で英語コーパス言語学を教えた。院生2名、学部生は当初10数名であったが、前もってコーパス言語学の知識のあった者は、4年生2名だけであった。ただしMS WordとExcelは使える状態であった。

日本では英語コーパス言語学を教授するシラバスは、まだ確立されていない。私も明確なシラバスを持って開講できず、試行錯誤的に授業を進めてきた。大学院の授業と学部の授業は、ほぼ同じ内容で英語コーパス言語学導入を行った。

新設の大学院特別演習室(コンピュータ室)を使ったが、完成が5月連休明けであったので、それまでは齊藤・中村・赤野編『英語コーパス言語学:基礎と実践』の1、2章を読んで、電子コーパス、英語コーパス言語学についての基本的な知識を与えた。

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町 1-1

徳島大学総合科学部

中村純作研究室

TEL 088-656-7129

URL <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECs/index.html>

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

1. 第15回大会報告

英語コーパス学会第15回大会は、4月22日(土)に、花水木が満開の中、岡山市の山陽学園大学で開催されました。当日は素晴らしい天候にも恵まれ、事務局の調べでは正会員78名、新入会員10名、当日会員18名、賛助会員1名の合計107名の出席がありました。事務局が交代して始めて100名をこす参加者を迎え、盛会でした。

午前中のワークショップは、昨年秋の第14回大会に引き続き事務局の中村(徳島大学)が担当し、「コーパス研究のための初歩の統計: Excelによるカイ自乗検定」と題してExcelを用いた統計処理の実習を行ないました。50名を越す参加者があり、CAI教室の定員をオーバーし、一部の参加者には、コンピュータを二人でご使用願うことになり、ご迷惑をおかけしました。統計処理の概念は、我々文系の研究者にとっては難解なものですが、パワーポイントを使用したプレゼンテーションは分かりやすいとの感想もいくつか頂いております。

午後の大会では、総会の後、研究発表とシンポジウムが行われました。研究発表では、堀井祐介先生(大阪大学)の「古ノルド語神話文献資料コーパスの活用」、大谷啓明さん(東京大学大学院生)の「英語テキストにおける母語話者と日本人英語学習者のトピック関連語の反復パターンの比較」、五百藏高浩先生(高知女子大学)の「動詞形成接辞-ize, -ify, -ateの付加における異形態の選択と音韻論的制約について」の計3件の研究発表がありました。研究内容、方法ともにバラエティに富んだものでしたが、直接英語には関係がないものの、ノルド語のコーパス作成の過程からはテキストをコード化する際の工夫に関する示唆が得られました。量は多くないもののトピックを与えて書かれた英語母語話者の反復パターンの研究と、電子辞書を活用した形態論の研究も、方法論的な示唆を多く含んだものでした。

本大会を締めくくる最後のプログラムとしては、久々にシンポジウムが開かれました。「Longman Grammar of Spoken and Written Englishを読む」と題したこのシンポジウムでは、発案者

の赤野一郎先生(京都外国語大学)にコーディネーターをお願いすると共に、講師の一人として「全体を概観して」というタイトルでお話を頂き、続いて、「文法論の視点から」、「語法研究・辞書学の視点から」、「英語教育の視点から」というタイトルで、各々、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)、井上永幸先生(島根大学)、鷹家秀史先生(岡山朝日高等学校)と須賀廣先生(高梁工業高等学校)の3組の講師陣からの発表がありました。取り上げたLongman Grammar of Spoken and Written Englishは昨年秋に刊行されたばかりでしたのでタイムリーな企画であったことと、3つの視点を切り口にしてこの大著に挑んだこと、さらに、赤野先生を中心とした講師陣の長期わたる準備の成果が遺憾無く発揮され、活発な質疑応答も加わり、充実したものとなりました。

大会終了後の懇親会には43名の出席があり、岡山の地酒の差し入れもあって、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がりました。

昨年に続いて春の大会が関西地区を離れて開催されましたので、何よりも参加者の数が心配されましたが、無事、成功裡に終えることができました。素晴らしい会場を提供して戴いた山陽学園大学のご厚意に感謝致します。特に能登原昭夫大会実行委員長、中野香大会実行委員には大変お世話になりました。また、山陽学園大学のスタッフ、能登原ゼミの学生諸君にも、お手伝いいただきました。この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

2. 会則の変更と運営委員の追加委嘱等の新年度の人事について

総会でお諮りしましたように、東支部の発足が4月21日開催の運営委員会で正式に認められましたので、この事に関して会則に新しい条項を追加しました。また、会誌の版下作りを業者に依頼するため、会費の増額をお願いしておりましたが、一般会員、学生会員ともに1,000円の増額となりました。賛助会員については3,000円の増額となりますので、よろしくお願い致します。

今年度は、2年任期の役員人事に関しては中間年度ですので大幅な変更はありませんが、一部、運営委員会です承された移動があります。

総会でもご報告しましたように、今年度から東支部が発足することになりましたが、この東支部の活動を支援し、同地区での学会活動をより活性化するため、東支部設立準備委員会のメンバーより3名の先生方に運営委員をお願いすることになり、新井洋一先生(中央大学)岡田毅先生(山形大学)塚本聡先生(日本大学)の先生方が新しく運営委員に加わりました。また、従来より九州地区からどなたか運営委員をお願いできないものかと思っておりましたが、許斐慧二先生(九州工業大学)にお引き受け頂くことになりました。新しく委嘱を受けたの先生方の当学会への積極的な貢献を期待しております。

さらに、英語コーパス学会東支部の発足に伴い新しく規則が制定され、その規則にしたがって、山崎俊次先生(大東文化大学)を支部長として、東支部設立準備委員会のメンバーであった先生方には引き続き幹事としてお世話を願うことになりました。

次に、会誌編集委員会の委員長の交代が認められました。この2年間、会誌編集の中心となって、論文審査、版下作り等の大変な作業をお引き受けいただいております井上永幸先生(島根大学)に代わって、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)に編集委員長をお願いすることになりました。井上先生、本当にご苦勞様でした。深谷先生、よろしくお願いいいたします。

永尾智先生(香川大学)にも、この2年間事務局の仕事をお手伝い願っておりましたが、公務多忙のため交代することが決まりました。会誌の印刷、発送や、会員名簿、会計の管理を一手に引き受けていただきご苦勞様でした。なお、後任については未定ですが、さしあたり事務局の中村がその任にあたることとなります。どなたか事務局をお手伝い願える方がございましたら、自薦、他薦いずれも結構ですので、事務局までご一報下さい。

事務局の中村の任期もこの3月で終わりということでしたが、すくなくとも現会長の任期が終了するまでは引き続きその任にあたることも合わせて了承されました。よろしく、お願いいいたします。

3. 『英語コーパス研究』第7号について

岡山の山陽学園大学における第15回大会に出席された会員の皆様には大会当日、また大会に出席できなかった会員の皆様にもこの Newsletter

とともに『英語コーパス研究』第7号(2000)がお手許に届いていることと存じます。第7号巻頭の Geoffrey Leech 先生による British National Corpus に関する論考は、前回のコーパス学会に行なわれた講演に基づくもので、『英語コーパス研究』第7号に掲載をお認めくださった Leech 先生をはじめ、録音テープからスクリプトを起こすという大変な作業を引き受けていただきました中村先生、そしてそのお手伝いをされた優秀な学生さんたちにお礼を申し上げたいと存じます。

第7号への投稿状況に関しましては、前号の Newsletter でお知らせしたとおりですが、残念ながら不採用となった論考が4編ほどあります。いずれもあと一歩というところのでき栄えて、今後の発展を期待しての建設的な不採用であったことを申し添えておきます。ぜひ、第8号への再挑戦をお願い申し上げます。

最後に、査読の過程で、お忙しい時期にもかかわらず、快く査読にご協力いただきました審査員の先生方、また、非力な私をたえず強力にバックアップしてくださった編集委員の西納春雄先生と吉村由佳先生、編集や印刷に関する面倒な会計作業をしてくださった永尾智先生、迷ったときには常に親身になって適切なアドバイスをしてくださった会長の齊藤俊雄先生、事務局の中村純作先生に心よりお礼を申し上げたいと存じます。第8号からは、椋山女学園大学の深谷輝彦先生に編集長の任を引き継いでいただくことになっております。会員の皆様の変わらぬ暖かいご支援とご協力を宜しくお願いい申し上げます。

井上永幸(島根大学)

4. 『英語コーパス研究』第8号について

『第8号(2001年刊行)の原稿を次の要領で募集致します。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」その他コーパス研究に有益な情報

【投稿申込締切】6月30日(金)

(氏名、所属、原稿の種類とタイトルを事務局までお知らせください)

【原稿提出締切】9月30日(土)

(ハードコピー4部提出; フロッピーディスクは査読終了後提出)

【原稿提出先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘 17-3

椋山女学園大学文学部 深谷輝彦研究室宛

【原稿の長さ】

1. 研究論文

和文 35字×30行×15枚以内

英文 70ストローク×35行×15枚以内

(いずれも Abstract (英文), 注, 書誌を含む)

2. 研究ノートは10枚以下, その他は研究論文の半分以下。

【書式】第7号所収の論文を参考にしてください。

詳細は学会のホームページでご確認ください。

【採否通知】11月ころ

【刊行予定】2001年3月25日

『英語コーパス研究』編集委員会

会誌編集委員長に就任して

井上前編集委員長の退任を受け、この度編集委員長役を引き受けることになりました。現在の編集委員である西納、吉村両先生のご協力を得ながら、『英語コーパス研究』第8号の編集にあたりたいと思います。井上前委員長のご尽力で、編集委員会はDTPから解放され、審査、編集のための編集委員会に変身しつつあります。したがって、第8号編集にあたり、会員から投稿された論文原稿を委員会が中心となって審査できる体制を少しずつでも作っていくことが課題です。こうした中、第8号の原稿募集を開始します。会員の皆様の積極的な投稿を期待しています。

深谷輝彦(椋山女学園大学)

5. 第16回大会の日程と研究発表募集について

2000年度の秋の大会(第16回大会)は10月14日(土)に大東文化大学板橋校舎(東京都板橋区)で開催されることになりました。大東文化大学で開催される2度目の大会ですが、都営地下鉄三田線西台駅から徒歩10分、あるいは東武東上線東武練馬駅から徒歩20分の便利なところにあります。春の第15回大会のシンポジウムで取り上げた *Long-man Grammar of Spoken and Written English* の著者の1人である D. Biber の講演を予定しております。 *Corpus Linguistics: Investigating Language Structure and Use* を彼と共著で書いている奥さんの R. Reppen も来日する予定です。是非、今から出張の予定に組み込んで頂きたいと思っております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】2000年6月30日(金)

【提出物】題目と要旨(800~1200字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2000年7月上旬(予定)

【その他】1. 時間 発表30分+質疑応答10分
(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること

Dr. Biber の特別講演を予定していますが、シンポジウム、ワークショップなどの企画についてもアイデアをお寄せください。

6. 東支部主催の「第3回コンピュータによる英語研究の講習会」について

英語コーパス学会東支部では、以下の要領で言語教育・研究に必須のコンピュータを利用した英語教育・研究の基礎講習会を、初心者を対象に開催します。今回は、以前から要望の高かった初学者を対象に2日間にわたりゆっくりとしたペースで基礎講習会を開催したいと思います。第1部ではコーパス言語学の見地から、コンピュータによる英語教育・研究の可能性を探り、そして第2部では参加者が実際にテキストを利用してコーパス言語学の初めから終わりまで一連の研究方法を体得していただく入門者に対する講習会です。

【主催】英語コーパス学会東支部

【対象】中高大教員、学部生、院生

【内容】コンピュータ利用による英語教育・英語研究

1部 コンピュータを利用したコーパス言語学の可能性

2部 電子テキストを使った講習(インターネット、CD-ROM等)

【日時】平成12年7月29日(土)14:00 17:00
平成12年7月30日(日)9:00 15:00

【場所】板橋区高島平1-9-7 大東文化大学
板橋校舎 1号館402教室(予定)

【交通】東武東上線東武練馬駅よりスクールバス
都営三田線 西台駅より徒歩10分

【費用】2日間参加 5,000円(学生 3,000円)

【出席の連絡先】

Fax: 大東文化大学英語学科
03-5399-7373 (山崎宛明記)

初歩から始めたいと思っている東地区の会員諸氏にはよい機会だと思いますので、是非ご参加下さい。まだ会員でない知り合いの方でコーパスを利用した研究に興味をお持ちの方がいましたら、お誘い下さい。なお、詳細は未定ですが、11月中

旬にも、東支部主催のコンピュータ講習会を開く予定で、準備を進めております。また、秋の第16回大会も、東支部が中心となって計画、開催することになっています。ご期待下さい。

東支部支部長 山崎俊次（大東文化大学）

7. JAECS-ML について

JAECS-ML が正式にスタートして1年が経過しましたが、現在登録者数41名で、トラフィックはほとんどありません。事務局では、早い内に学会の *Newsletter* 等のペーパーレス化をはかりたいと思っておりますが、現在の登録者数ではそれもままなりません。そこで、学会内の連絡手段として活性化したいという会長と事務局の意向を受けて、先の運営委員会でMLの今後について、検討をお願いしました。

ペーパーレス化のためには、会員の大部分を自動的に登録するのが決定的な解決策かと思いません。考えられる手順としては、*Newsletter* や e-mail で、リストに入りたくない人はその旨MLの管理をお願いしている園田勝英先生（北海道大学）あるいは事務局に連絡するように周知徹底した上で、それ以外の会員はすべてリストに登録し、期日を決めてメーリングリストを開始することが考えられます。ただ、このような方法については、過去の運営委員会でも疑義が出されたことがありますので、会員諸氏のご意見を伺いたいと思えます。この事に関するご意見、ご要望などがございましたら、事務局までご一報ください。

さらに、ペーパーレス化には、過去のメールをWWW上で閲覧できる体制も必要になりますし、現在、西納春雄先生（同志社大学）に管理をお願いしている英語コーパス学会のホームページとの連携も必要になります。このように、検討すべきことがいくつかありますが、これらの点をできるだけ早く解決し、早急にペーパーレス化を実現したいと思っておりますので、よろしくご協力下さい。

8. 新入会員紹介（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

JAECS *Newsletter* No. 28 発行以降の新入会員の方は次の通りです（5月15日現在、敬称略）

< 一般会員 >

梅津 洋子（徳島大学S）

大室 剛志（名古屋大学）

岡元 義彦（徳島大学S）

神谷 健一（四条畷学園高等学校）

小迫 勝（岡山大学）

齊藤 泰成（玉野光南高等学校）

佐藤 義（ただし）（大東文化大学大学院S）

白水 桂子（長崎大学）

Szirmai, Monika（広島国際大学）

竹内 典彦（筑波大学S）

橋本 喜代太（大阪女子大学）

弓谷 行宏（山陽学園大学）

吉田 智佳（天理大学（非常勤））

< 賛助会員 >

ピアソン・エデュケーション株式会社

541-0043 大阪市中央区高麗橋 2-3-5

06-6221-3222

9. 名簿の訂正のお願い（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

会員名簿の記載内容に訂正がございます。以下のようにご訂正下さい。

住所・電話番号の変更

綾野 誠紀

酒井 成夫

佐藤 弘明

須賀あゆみ

浜嶋 聡

松本 祥仁

吉村 耕治

E-mail アドレスの変更

高橋 薫

田畑 智司

勤務先の変更

小嶋 義勝 市原高等学校

富山 義弘 関西大学（非常勤）

10. 藤本さんの御遺族からの賛助金について

藤本和子先生（元椛山女学園大学）が昨年末にお亡くなりになったことは、*Newsletter* No.28でお知らせしましたが、その後、御尊父の藤本正人様より、以下の文面とともに、2万円の賛助金の振り込みがございました。

藤本和子が永い間お世話様になり有難う御座いました。この度急な事で皆様にご迷惑をおかけ致しましてすみません。ささやかですが賛助金をお送りさせていただきます。大好きだった英語コーパス学会のご発展を心よりお祈り致します。皆様によろしくお伝え下さいませ。お元気で。

藤本正人様のご厚意に感謝すると共に、重ねて藤本和子先生のご冥福をお祈りいたします。

11. 事務局から

会費納入のお願い

2000年度会費（一般5,000円、学生4,000円）未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

1999年度会費未納の方は、2000年度分と合わせてお納めください（振替用紙にその旨記しております）。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、*JAECs Newsletter*等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

学会設立10周年記念行事について

英語コーパス学会は、英語コーパス研究会として1993年4月に初めての研究発表会を開催して以来、すでに7年が経過、8年目の活動に入っております。大会も15回を終え、会誌も7号を数えました。2年後には、10周年を迎える訳ですが、運営委員会では、既にこの10周年を記念した行事を計画したらどうかという話が出ております。記念論文集の発刊、海外からの著名な研究者の招聘、学会賞の制定など、いくつかの案が出されています。事務局でも、この秋の運営委員会あたりから10周年記念行事企画委員会のようなものを組織し、準備を始めたいと思っておりますので、会員諸氏からもどしどしアイデアをお寄せ下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですでお寄せください。

FORUM

「ビジネスレターコーパス オンライン・コンコーダンサー」設置のお知らせ

東京大学大学院
総合文化研究科博士課程 染谷泰正

このたび、私のホームページ上に頭記のオンライン・コンコーダンサーを設置しました。およそ100万語の「英文ビジネスレターコーパス」から任意のキーワードを指定して用例をKWIC検索することができます。URLは<http://www2.gol.com/users/ysomeya>（又は<http://www9.freeweb.ne.jp/school/ysomeya>）です。メイン・メニューの左上に"Business Letter Corpus KWIC Search"というタイトルがあります。ここをクリックするとコンコーダンサーのページに移ります。なお、海外ユーザからの要望により、現在は原則としてすべて英語によるページになっています。

1 コーパスの概要

現在のところ、以下の3種類のコーパスが利用できます。

- Business Letter Corpus (BLC: Ver.01-00)
- POS-tagged BLC
- Personal Letter Corpus (PLC: Ver.01-00)

このうち、BLCには1970年代以降に発行された英米その他の出版物から収集したデータがおよそ100万語収録されています。POS-tagged BLCは、BLCのデータに品詞タグを付与したものです。品詞タグの付与はEric BrillのRule Based Tagger (Ver.1.14)を使って行い、オリジナルのルールファイルを一部改良しておよそ96%のタグ付け精度を得ています。ただし、まだかなりのエラーがありますので、今後、少しずつ修正を加えていくつもりです。

なお、BLC および POS-tagged BLC はもともと私の修士論文 (A Corpus-based Study of Lexical and Grammatical Features of Written Business English, 1999) のための資料として作成したもので、その詳細については同論文を参照してください(論文は私のホームページからダウンロードすることができます)。PLC には米国英語で書かれた私信の文例がおよそ 14 万語収録されています。

なお、本来は、一般英語や他の ESP ジャンルの英文との比較ができるように Brown Corpus や LOB Corpus などの標準的なコーパスや、前記の論文で使用した TIME Corpus その他のコーパスを使った用例検索もできるようにしておくほうがいいのですが、今のところ、サーバー上のスペースの制限やその他の事情でそうすることができません。その代わりに、Virtual Language Center が提供している Web Concordancer へのリンクを貼り、こちらで Brown や LOB を含む各種一般英語コーパスからの用例検索ができるようにしてあります。

2 検索方法

本コンコーダンサーはもともと一般の学生、あるいはビジネスマンを対象にした Data-driven Writing の実験用に作成したものです。したがって、検索文字列の指定を含め、全体にごく簡単な操作で動くように設計してあります。

初期画面では Search String (検索文字列指定)、Search Type (検索方法指定)、Line Width (結果表示桁数指定)、Search Corpus (コーパス指定)、および Sort Type (左右ソート指定)の 5 つのボックスがあり、Search String と Line Width の指定以外はすべてマウスで希望の項目をクリックするようになっています。検索できる文字列に特に制限はなく、任意の形態素、単語あるいは、フレーズを指定することができます。

文字列の検索方法には Equal to (同一文字列の検索)、Start with (指定の文字列から始まる単語の検索)、End with (指定の文字列で終わる単語の検索)、および Contain (指定の文字列を含む単語の検索)の 4 つのオプションがあり、目的に応じて使い分けられるようにしました。また、Perl の正規表現を使った文字列指定も可能ですので、正規表現が使える人は Search String のボックスに直接、正規表現検索式を打ち込み、かなり複雑な検索をすることもできます。

Line Width のボックスでは結果表示の桁数を指定します。デフォルト値は左右 40 桁になっていますが、この数値は任意に変更することができます。したがって、できるだけ多くの文脈情報を得

たい場合には、この数値を多めに指定しておけばいいわけです(ただし、現在は当該語句を含む文の境界を超えた表示はしないように設定してあります)。

Sort Type のボックスでは、キーワードの左ソートと右ソート、およびソートなしの 3 つの指定ができます。ただし、タグ付きコーパスを使って正規表現検索をした場合は左ソートがうまく動かないことがあるようです。

3 検索結果の表示

この種のシステムではデータベースのサイズと質の他に、検索スピードが重要な要素になってきますが、これについてはまずまずの水準に達していると思います。通例、SUBMIT ボタンを押してから 5 秒から 10 秒前後で結果が表示されます(もっとも、サーバーが混雑している場合にはこれ以上かかる場合があります)。

検索結果の表示件数に制限はなく、ヒットした事例がすべてそのまま一括表示されます。したがって、仮に 1000 件ヒットしたとすれば、この 1000 件がすべて KWIC 表示されます。あとは、これを cut& paste して自分のパソコンに取り込み、エディタ上で必要な編集・加工を加えればいいわけです。なお、先日、ユーザの方からタグ付きコーパスのアウトプットからタグデータのみを一括削除するにはどうしたらいいか、という問い合わせがありましたので、参考までに、そのための簡単な AWK スクリプトを掲載しておきました("Important Notice" のページ参照)。

4 プログラムの公開

本システムのプログラム (CGI Perl Script for Online BLC KWIC) は GNU GENERAL PUBLIC LICENSE (Ver.2, June 1991) にしたがって、研究・教育目的に使用することを条件に、フリーウェアとして公開しています。ご自分のホームページ上に本システムと同様の Online KWIC Concordancer を設置したいと考えている方(特に、ビジネス英語以外の ESP 分野の英語コーパスをお持ちの方)は筆者までご連絡ください。

5 今後の課題

1) 現在のシステムではひとつ(またはひとつ組)のキーワードしか指定できませんが、将来的には第 2 次キーワードの指定ができるようにし、必要に応じて 2 つの単語(または語句)の共起例を検索できるようにしたいと考えています。また、これに合わせて LDC-Online に見られるように MI や T-score の表示機能を加えたいと思います(こ

れについては投野由紀夫先生からコメントをいただきました)。

2) 現在の BLC は米国英語と英国英語の文例が混在していますが、将来的にはこれをきちんと2 つに分けて両者を比較できるようにしたいと考えています。

3) 現在の BLC は、いわゆる母語話者による規範的な用例を検索したり、その揺れを検討するのに適していますが、この他に日本人ビジネスマンによる英文文例を収録した "Learner BLC" についてもできるだけ早い時期に公開するつもりです(現在、およそ 20万語の Learner BLC ができていますが、公開までにはもう少し編集作業が必要です)。

4) なお、前述の Data-driven Writing の実験はすでにスタートしています。実験に当たっての筆者の仮説は「Online Concordancer を使った Data-driven Writing は、従来の添削(あるいはその他の方法による事後フィードバック方式)による

after-the-fact teaching よりも教育的効果が高い」というものですが、実際にそういうことが言えるのかどうか、8 月までには一応の中間報告をまとめられると思います。また、これに合わせて、(1) 実験の参加者が Online Concordancer をどのように使っていたか、(2)使用に当たってどのような問題点があったか、(3)現在の Online Concordancer にどのような機能を付け加えればより効果的な learner-initiated learning が可能になるか、といったことも検討したいと考えています。

*

以上、「ビジネスライターコーパスオンライン・コンコーダンサー」の概要について説明しました。今後、少しずつ手を加えながら使用価値を高めていきたいと思っています。お時間のあるときにでも一度覗いてみてください。コメントやご助言などいただければ幸いです。

会長 齊藤俊雄

事務局 770-8502 徳島市南常三島町 1-1

徳島大学総合科学部

中村純作研究室

TEL 088-656-7129

E-mail:

URL <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECs/index.html>

郵便振替口座 00940-5-250586 (英語コーパス学会)

1. 第16回大会のご案内

英語コーパス学会第16回大会は、10月14日(土)に大東文化大学板橋校舎(〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 03-5399-7319〔広報部〕。東武東上線「東武練馬」駅北口より徒歩20分、同駅北口「大東文化会館」前よりスクールバス(5分)。或いは都営地下鉄三田線「西台」駅より徒歩10分。詳細は<http://www.daito.ac.jp>を参照、「事務局より」の欄に簡単なアクセスマップ)で開催されるはこびとなりました。大東文化大学は齊藤会長が現在勤務している大学で、今回で2度目の大会開催となります。会場校のご好意と山崎俊次大会実行委員のご尽力に感謝いたします。

大会プログラムとレジメを同封いたしますが、今大会では研究発表1セッションと特別講演を準備しました。研究発表には塚本聡先生(日本大学)のPenn-Helsinki Parsed Corpus of Middle Englishに付加された統語情報を利用した分析、岡田毅先生(山形大学)によるLOB Corpusの動詞の活用パターンとテキスト範疇の関連についての研究、橋本喜代太先生(大阪女子大学)の“however”の位置に見られる意味の分析の3件をお願いしました。典型的な通時コーパスであるPenn-Helsinki Corpusや、古典的ではありますがやはり典型的なサンプルコーパスであるLOB Corpusを使った発表に加えて、発表者が作成したCAMECと呼ばれる現代アメリカ英語コーパスも紹介されます。内容的には塚本先生と岡田先生の研究が文法標識を利用したテキストの類型分析、橋本先生は意味論を扱っています。ご期待ください。

前回の大会以来、秋の大会では海外の著名なコーパス言語学者による特別講演をいくつか企画してきました。Jan Svartvik、Graeme Kennedy、Geoffrey Leechの各先生方には、このような本学会での講演を契機に名誉会員になっていただきましたが、今回も特別講演の講師としてDouglas BiberとRandi Reppen御夫妻をお招きすることができました。ご承知のようにDr. Biberは*Variations across speech and writing*(Cambridge Univ. Press: Cambridge, 1988)、*Dimensions of register variation: a cross-linguistic comparison*(Cambridge Univ. Press: Cambridge, 1995)や*Langauge, Linguistics*等に発表された数々の論文で知

られる著名な米国のコーパス言語学者です。現在、教授として北アリゾナ大学文理学部英語学科で応用言語学を担当しております。コーパスを利用した数量的な分析結果を文法と結びつける研究を行っており、春の本学会第15回大会では赤野一郎先生(京都外国語大学)を中心に彼の近著をテーマに「Biber *et al.*, *Longman Grammar of Spoken and Written English*を読む」と題したシンポジウムを企画し、大成功を収めたのは会員諸氏の記憶にも新しいことだと思います。

Dr. Randi Reppenは同じく英語学科の助教授で、Intensive course in Englishのディレクターを勤めております。Dr. Biber、Susan Conradと彼女との共著*Corpus Linguistics: Investigating Language Structure and Use*(Cambridge Univ. Press: Cambridge, 1998)は会誌『英語コーパス研究』第7号の吉村由佳先生(慶応大学非常勤)による書評でも取り上げられています。今回の特別講演では、Dr. Reppenに“Corpus linguistics and language teaching”、Dr. Biberには“Corpus linguistics and the study of English grammar”と題したお話をお願いしました。春の大会のシンポジウムに引き続き、非常にタイムリーな企画だと思っておりますので、是非ご期待下さい。なお、大会終了後に恒例となっております懇親会にもお二人のご出席をお願いしました。

大会プログラムとしてほぼ定着した午前中のワークショップでは、滝沢直宏先生(名古屋大学)に「コーパス利用のためのUNIXの最初歩」と題して、基本的なUNIXコマンドの使用法の実習を行います。Windowsのアプリケーションに慣れ親しんでいる我々にとってUNIXの世界はちょっと近寄りやすい感じがしますが、意外と簡単に利用できることを体験していただきます。ftpやsort、uniq等の基本的なコマンドのほか、滝沢先生が得意とする「正規表現」を使ったgrep検索などを扱っていただきます。大学のサーバーはほぼUNIXをOSとしていますので、UNIX環境は意外と我々の手の届くところにあります。このワークショップに参加して、sed、awk、perlなども使った少しばかりレベルの高いコンピュータの利用法に挑戦しては如何でしょう。参加希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込みください。先着30名(予定)で締め切らせていた

だきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です（非会員の場合は参加費 1,000 円）。

2. 『英語コーパス研究』第 8 号への応募状況

『英語コーパス研究』第 8 号の原稿を募集しましたところ、論文 6 件、ソフトウェア紹介 1 件、海外レポート 1 件、書評 1 件(交渉中)の申し込みをいただきました。

この他に、第 16 回大会のゲストで来日される Biber 夫妻から、論文をいただき巻頭を飾りたいと考えています。さらに、その Biber らが著した LGSWE を議論した第 15 回大会のシンポジウムをまとめるべく、現在講師の先生方と検討をすすめています。

最後に今回の新しい企画として、海外のコーパス研究論文を手短かに紹介する Abstracts または Short notice 型の記事を準備しています。

なお、9 月末日までにご応募いただければ、審査の対象となることが可能ですので、ぜひとも奮ってご応募ください。お待ちしております。

[原稿の種類]

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」その他コーパス研究に有益な情報

[論文の長さ]

1. 研究論文
和文 35 字 × 30 行 × 15 枚以内、英文 70 ストローク × 35 行 × 15 枚（いずれも Abstract(英文)、注、書誌を含む）
2. 研究ノートは 10 枚以内、その他は研究論文の半分以内

[書式]

第 7 号所収の論文を参考にしてください。詳細は学会ホームページをごらんください。

[原稿締切] 2000 年 9 月 30 日(土)

[提出内容] ハードコピー 4 部提出、フロッピーディスクは査読終了後提出

[提出先]

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3
椋山女学園大学文学部深谷輝彦研究室宛

E-mail:

Tel: 052-781-1186, Fax: 052-781-6210

[採否通知] 11 月頃

[刊行予定] 2001 年 3 月 25 日

『英語コーパス研究』編集委員長
深谷輝彦

3. 東支部主催第 3 回「コンピュータによる英語研究の講習会」報告

7 月 29 日(土)と 30 日(日)の両日、大東文化大学板橋校舎で第 3 回目の「コンピュータによる英語研究の講習会」を開催し、盛会のうちに無事終了しました。参加者は、計 36 名で教員が 24 名、学生が 12 名でした。初日(土曜日 14:00? 17:00)に吉村由佳先生(慶応大学非常勤)が、「インターネットとコーパスの基礎」というタイトルで、2 日目(日曜日 9:30? 15:00)には塚本聡先生(日本大学)が「英語コーパスによる英語研究の実践」というタイトルで講習を行い、受講生は全員大変熱心に作業に取り組んでいました。特に学部生 5 人と院生が 7 人、さらに中高の教員が 5 人と新しい参加の形が見られ、今後の学会の発展には嬉しい兆しだと思われま。会員になるように勧誘したところ少なからず反応が見られ、11 月にも第 4 回の講習会を開催する旨を知らせたところ、興味をもって応えておりました。さらに東支部の講習会を充実させ、新しい会員を開拓したいと思っております。

なお、11 月の講習会については未定ですが、本年も来日を予定している Geoffrey Leech 先生の講演会を講習会と合わせて開ければと思っております。Leech 先生と連絡を取り、最終的な日程を調整し、次回 Newsletter ではお知らせできると思っております。

JA ECS 東支部支部長
山崎俊次

4. 寄贈図書紹介

5 月と 6 月に事務局宛て『英語史研究会会報』第 3 号と島根大学教育学部英語教育研究室発行の『英語教育と英語研究』第 17 号の寄贈がありました。

英語史研究会は本学会の会員である田島松二先生(九州大学)が事務局を勤めておられる研究会で、メンバーには JA ECS の会員も多数加わっております。寄贈戴きました『会報』第 3 号(A5 版 28 ページ)には愛媛大学名誉教授小野捷先生の特別寄稿「近代英語研究のすすめ」の他、3 月まで JA ECS 会員であった渡辺秀樹先生(大阪大学)の研究ノート「中世における red gold はやはり原義は『純金』ではないか」と、JA ECS 現会員堀正広先生(熊本学園大学)の新刊書紹介「スモレット著『ロデリック・ランダム冒険』」が収められております。

『英語教育と英語研究』第 17 号[山田政美教授退官記念号](A5 版 134 ページ)は、山田政美教授ご自身の論考「Stars Fall on Alabama: I Hear America Talking」の他、JA ECS 現会員井上永幸先生(島根大学)の「コーパスに基づくシノニム研究と辞書学 happen と take place」も収められております。事務局を引き継いで以来、初めての図書紹介ですが、今後とも継続できればと思っております。スペースの関係と事務局の力量不足で十分なご紹介はできかねますが、会誌、会報、論文抜き刷りなどお寄せ下さい。なお、現物は

事務局で保管致しますが、論文のコピーなど御要望の方はご一報下さい。

新宿宇野ビル 25F 03-5339-1162

村田 和代

5. 公募情報

成城大学学長および社会情報学部（仮称）設置準備室長より本学会宛てに「教員の公募について」の依頼がありました。以下に簡単な概略を転載いたします。

[公募人員] 英語教員 1 名（職位は規定により定める）

[担当科目] 英語

[専門分野] 外国語としての英語教育

[年齢] 大学卒業後 6 年以上の研究歴、採用時に満 55 歳未満

[採用予定日] 2001 年 4 月 1 日

[応募締切] 2000 年 10 月末日（消印有効）

[問合せ先] 成城大学事務局総務課

03-3482-2101（直通）

E-Mail:

なお提出書類には指定された様式の履歴書と研究業績目録の他、自由様式の教育業績、教育計画が含まれております。詳しくは、上記の問合せ先、あるいは事務局まで。

6. 新入会員紹介（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

JAECs Newsletter No. 発行以降の新入会員の方は次の通りです（8 月 20 日現在、敬称略）

木村 由香（大阪大学 S）

E-mail:

田畑 圭介（金沢学院短期大学）

E-mail:

千葉 庄寿（しょうじゅ）（東京大学 S）

E-mail:

中島 浩二（秋田大学）

E-mail:

三浦 邦彦（東京大学教育学部附属中等教育学校）

E-mail:

森田 光宏（私立横浜隼人高校非常勤）

E-mail:

7. 名簿訂正のお願い（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

住所・電話番号などの変更

東郷登志子

ベネッセコーポレーション辞典企画室

163-0525 新宿区西新宿 1-26-2

住所の訂正

女鹿 喜治

勤務先の変更

内田 充美 神戸松蔭言語科学研究所(研修員)

水島 孝司 東京水産大学（非常勤）

千葉商科大学（非常勤）

E-mail アドレスの変更・追加・訂正

内田 充美

國森 伸子

藤村 聡子

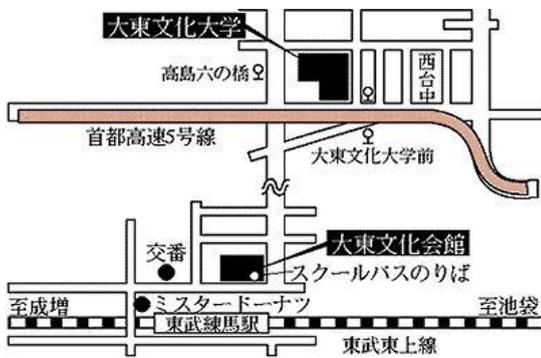
8. 事務局から

会費値上げと納入のお願い

JAECs Newsletter No. 28 以来お知らせしていましたが、今年度より年会費を値上げさせていただきましたが、ご存知でない会員の方が相当数おりました。値上げ前の会費で今年度分をお支払いいただいた会員の方には、差額分を記入した振替用紙を同封致します。同じく、今年度に入って新しく会員になられた方の中にもホームページ上の入会申込書の年会費の更新が遅れてご迷惑をおかけしておりますが、同様の措置を取らせていただきました。また、2000 年度分、あるいは前年度分未払いの会員の方にも、金額に応じた振替用紙を同封致しましたので、お納め下さい。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。2 年続けて会費未納の場合、JAECs Newsletter 等の送付を中止させていただきます。なお、所属、住所、電話番号などの変更がございましたら、合わせてお知らせ下さい。

大東文化大学へのアクセスについて

冒頭の「第 16 回大会のご案内」でも述べましたように、大東文化大学板橋校舎へは、東武東上線「東武練馬」駅北口より徒歩 20 分、同駅北口「大東文化会館」前よりスクールバスを利用すると約 5 分です。或いは都営地下鉄三田線「西台」駅より徒歩 10 分です。以下に簡単なアクセスマップを貼り付けておきます。



JAECs Newsletter No. 29 の訂正について

事務局の不手際で JAECs Newsletter No. 29 に 3ヶ所ほど誤りがありました。5番目の記事「第16回大会の日程と研究発表募集について」で大会の日程が10月12日(土)となっていました。正しくは10月14日(土)です。会員の飯塚利昭氏(大修館書店)他の方からご指摘を受けました。第6項目「東支部主催の『第3回コンピュータによる英語研究の講習会』について」では、執筆者の山崎俊次先生のお名前を「俊二」と誤記、第8項目「新入会員紹介」で佐藤義(ただし)氏のご住所の頭に余計な漢字を一字挿入してしまいました。お詫びするとともに、訂正のほどよろしくお願い致します。このところ、事務局が多忙で、万全を期しているつもりですが誤りが目立ちます。ご容赦下さい。

名誉会員の先生方とのその後

冒頭の記事でも触れましたように、今までに名誉会員になっていただいた先生が3名おります。いずれの先生方にも、春の大会の報告を中心とした Newsletter を発送する時点で、1年分の Newsletter と会誌をお送りしています。今年度も3名の先生方から丁寧なご返事を事務局宛ていただきました。Svartvik 先生からは、英語の論文に目を通し、楽しんだことと、「会誌」のでき映えに対する賞賛の言葉をいただきました。Kennedy 先生は、JAECs の1年間の活動量に深く感動している様子でした。Leech 先生には昨年度の会誌に投稿していただきましたが、やはり会誌と抜き刷りのでき映えにご満足していただけました。Newsletter は日本語ですが、ある程度、我々の活動内容が伝わっているようです。今後とも、海外の著名なコーパス言語学者をお招きし、名誉会員になっていただくことにより、我々の活動を世界的に知ってもらおう一助にしたいと思っています。

会誌『英語コーパス研究』の販売について

会誌『英語コーパス研究』第7号は平成11年度年会費をお納め戴いている会員には全員お届けしております。4月以降に前年度会費をお納め頂いた方には、今回、同封させていただきます。今年度新しく会員になられた方は第8号からお送りすることになりますが、まだ多少残部がありますので、ご希望の方は事務局までお申し出下さい。1部1,500円です。春

の大会時の受け付けが多少混乱したこともあって、会誌の員数が1~2部あっていません。新しく会員になられた方で、会誌を受け取り代金をお支払いになっていない方、会費をお支払い頂いているのに会誌が届いていない方などございましたら、事務局までお知らせ下さい。

Leech 先生の講演テープについて

遅くなりましたが、昨年秋の第14回大会での Leech 先生の講演テープと Transcript をお申し込みになった会員の方には、この Newsletter に同封させていただきました。振替用紙に実費を記入してありますので、お支払い下さい。

事務局をお手伝い願える方を募集しています。

今年5月から事務局が一人の状態が続いております。会計管理と名簿管理、Newsletter の発送などのお手伝いができる方を、自薦、他薦で募集中です。できれば Microsoft Access に堪能な方が望まれます。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがあれば、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書を紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

FORUM

TXTANA Standard Edition について

赤瀬川翻訳事務所 赤瀬川 史朗
<http://www.biwa.ne.jp/~aka-san/>
 E-mail:

この4月、これまでのTXTANAの上位版にあたるTXTANA Standard Edition(以下、TXTANA SE)を上記のURLで公開しました。従来のTXTANA Learning Edition(以下、TXTANA LE)を公開してから3年が経ち、その間、多くのユーザから要望をいただき、構想から2年、試行錯誤を繰り返したのち、ようやく上位版の公開にこぎつけることができました。以下、TXTANA SEの特長と主な機能をご紹介します。なお、TXTANA SEはシェアウェアで、15日間は機能制限なしで試用できます。対応OSはWindows 95/98で、NT 4.0, 2000には2.30版で正式対応します。TXTANA LE

の登録ユーザにはアップグレードサービスを用意しています。

TXTANA SEの第一の特長は、1万件を超える大量のコンコーダンスラインを処理するために、堅牢なデータベース構造を採用している点です。CPUやメモリなど、ハードウェアの条件さえ整えば、ストレスなく数万件の検索が可能になります。今後のハードウェアの進歩をにらんでの開発です。また、使い勝手を考えて、検索、メインリザルト（検索結果）、クエリー（絞り込み）、コロケーションの4つのウィンドウを設けて、機能ごとに広い画面が利用できるようにしました。

検索機能については、TXTANA LEの機能を継承しながら、さらに強化・拡張を図っています。検索スピードも、一般的にLEに比べて格段に速くなっています。主な特長を挙げると、1) ファンクションキーでコーパスファイルを指定できる。2) キーワードに正規表現が使える。正規表現支援メニューを使えば、活用語尾などをメニューから選択して簡単に補完できる。ユーザが独自のメニューを編集できるツールも付属。3) キーワードにコンセプト辞書(LEのシノニム辞書に相当)が使用できる。「(get|gets|got|gotten|getting)」を検索するときも、「@get」と指定するだけで済む。4) コンセプト辞書を編集するための専用プログラムコンセプト辞書エディタが付属。5) 第2キーワードをどの位置から検索するか(第1キーワードの左右、指定語数以内、同一センテンスか隣接するセンテンスも含むか、など)、きめ細かな指定が可能。6) 検索結果が多いときに重宝する無作為抽出機能、などです。

次に、コンコーダンスの心臓部であるコンコーダンスラインの処理機能では、まず、並べ替え機能の強化を図っています。最大3つのソートキーが指定でき、ソートキーごとの表示色の設定が可能です。使い勝手を考えて、並べ替えはキーボード、マウス、ダイアログいずれからでも操作可能です。英語のほか、仏独西伊などのソート順位に従った並べ替えができます。まったく新しい機能として、コンコーダンスラインの左に第1ソートキーの頻度を表示するフリークエンシービューを設け、ダブルクリックで

目的のラインにジャンプできるようにしました。これで、コンコーダンスライン全体をブラウズせずに、目的のラインをすばやく効率的に探し出せます。このほか、1) 中央に来るキーワードの位置を左右にずらすことができる。2) コンテキストビューには、選択しているラインの前後の文脈が表示される。必要に応じて、最大化したり、直接エディタでコーパスファイルを開いたりすることができる。3) コンコーダンスラインごとにメモがつけられる。4) コンテキストをファイルに出力するレポート機能、など、他のコンコーダンスには見られない機能を搭載しています。LEにはなかったコンコーダンスラインの印刷機能も追加しました。

LEの絞り込み機能に相当するクエリー（問い合わせ）機能も充実しています。共起語の範囲（5L～1L, 1R～5R）を指定して条件に合致するラインを抽出し、その結果を並べ替えたりコンテキストを確認したりできます。また、不要なラインを抽出して一括削除をするような使い方も可能です。さらに、5L～1L, 1R～5Rの複数の範囲を選んで、そこに出現する語の頻度を集計できます。集計の際に包含語辞書や排除語辞書を指定すると、例えば、動詞候補の語を別の色で表示したり、頻度の高い語を排除して表示したりできます。また、表示された語を含むコンコーダンスラインを抽出して表示することも可能です。

四番目のコロケーション機能では、TXTANA LEのコロケーション統計に相当するシートビューのほかに、COBUILD Directのピクチャー画面に相当するピクチャービューを設け、目的に応じて画面を切り替えて使用できます。

このように、TXTANA SEには従来のコンコーダンスにはない数々の新機能が搭載されています。ここでは説明しきれなかった機能はプログラムプログラムに付属するドキュメントに詳説されています。また上記のURLには図解入りの解説があります。ぜひご試用いただければと思います。

英語コーパス学会 Newsletter No. 31

November 11, 2000

■会長：齊藤 俊雄
■事務局：〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL：088-656-7129 ■郵便振替口座：00940-5-250586（英語コーパス学会）
■URL：http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html ■E-mail：jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第16回大会報告

英語コーパス学会第16回大会は、10月14日（土）に、大東文化大学板橋校舎で開催されました。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは正会員68名、新入会員3名、当日会員13名、賛助会員1名の合計79名の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「コーパス利用のためのUNIXの最初歩」と題して滝沢直宏先生（名古屋大学）に御担当頂きました。日頃WindowsやMacに慣れ親しんでいる我々にとって、UNIXの世界は一種独特で近寄りづらい感じが拭い切れませんので、事務局としては参加者の数を心配しておりました。ところが、最終的には27名もの参加者を迎え、関心の高さを再認識させられました。ディレクトリー構造の説明から始まり、ファイル操作の様々な方法、インターネット上のファイルの取得、正規表現を用いたGrep検索などの実習を通じてのUNIXへの挑戦でしたが、時間的な制約があったにもかかわらず、滝沢先生にはやさしく御説明頂き、参加者には理解しやすかったととても好評でした。

午後の大会では、会長挨拶の後、研究発表と特別講演が行われました。研究発表では、塚本聡先生（日本大学）の「The Penn-Helsinki Parsed Corpus of Middle English に付加された統語情報：分析への活用」、岡田毅先生（山形大学）の「LOBコーパスにおける動詞の活用パターンとテキスト範疇」、橋本喜代太先生（大阪女子大学）の「howeverの位置は何を示しているか」の3件の研究発表がありました。

塚本先生にはThe Penn-Helsinki Parsed Corpus of Middle Englishの文法標識をテキスト単位でカウントした上で、クラスター分析により分類を行った研究を、岡田先生にはLOBコーパスの全動詞の活用表をもとに31種類の活用パターンに整理、そのジャンルによる分布傾向に関する研究を発表していただきました。期せずして、史的コーパスにおいても現代英語コーパスにおいても文法標識の重要性を再認識させる研究が続きました。一方、橋本先生にはBrown Corpusと自ら編纂したCAMECと呼ばれる現代アメリカ英語コーパスを利用したhowever

の出現位置決定に関する意味論的な研究をご発表頂きましたが、音声的な側面にも言及され、英語教育にも示唆を含んだご発表でした。

本大会を締めくくる最後のプログラムとしては、大東文化大学と姉妹校提携をしている北アリゾナ大学より来日中のDouglas Biber、Randi Reppenご夫妻に特別講演をお願いしました。*Corpus Linguistics: Investigating Language Structure and Use* (Cambridge: Cambridge Univ. Press, 1998)の著者の一人であるReppen先生には、ご専門の英語教育の立場から“Corpus Linguistics and Language Teaching”と題して講演を頂きました。実際に英語を教える立場から、コーパス言語学的重要性、その具体的な利用法にまで言及した示唆に富む内容でした。

今年春の15回大会のシンポジウムで取り上げられた大著*Longman Grammar of Spoken and Written English* (Harlow, Essex: Pearson Education, 1999)の共著者であるBiber先生には“Corpus Linguistics and the Study of English Grammar”と題した講演をお願いしました。自らが中心的な役割を果たして出版した*Longman Grammar*の中から具体例を引用しつつ、現代英語の文法を記述する際に、コーパスを利用することの重要性を熱っぽく語りかけられておりました。

なお、お二人の講演の要旨は会誌『英語コーパス研究』No. 8に掲載予定で、現在原稿を依頼しております。ご期待下さい。また、当日の講演テープを事務局で準備しておりますので、ご希望の会員には、実費で配布致します。（今回はお二人が書き下ろし原稿をご準備下さるとのことですのでTranscriptは準備致しません。）

大会終了後の懇親会には30名の出席がありました。特別講演の講師であるBiber、Reppen両先生に会長から名誉会員証と過去の会誌3年分が贈られた後、乾杯。Biber夫妻との懇談、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がりました。

東京地区では3度目、東支部が設立されて初めての大会でしたが、無事、成功裏に終えることができました。これも、素晴らしい会場を提供して頂くと共に、経済的にもご援助を頂いた大東文化大学のこ

厚意と、東支部の先生方、特に会場校の山崎俊次大会準備委員のご尽力があったのでした。この紙上を借りて深く御礼申し上げます。また、山崎ゼミの学生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いをいただきました。大会成功の陰には、明るく、礼儀正しい学生諸君もおおいに貢献したことを付け加えたいと思います。

2. 『英語コーパス研究』第8号について

『英語コーパス研究』第8号(2001)に多くのご投稿をいただきありがとうございました。第16回大会でご講演をいただいた Reppen & Biber 両先生からご寄稿いただき、巻頭を飾る予定です。また、論文3編、研究ノート1編、ソフトウェア1編、海外レポート1編が寄せられ、現在査読を進めています。さらに、短評1編も追加されることになっています。

会員の皆様のご協力を得ながら、よりよい内容の学会誌を作りあげたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いに存じます。

深谷輝彦(椋山女学園大学)
『英語コーパス研究』編集委員会

3. 第17回大会の日程と研究発表募集について

2001年度の春の大会(第17回大会)は4月21日(土)に帝塚山大学短期大学部学園前キャンパス(〒631-8585 奈良市学園南3丁目1-3 0742-41-4716(代表))で開催される運びとなりました。奈良県内で開催される初めての大会ですが、会場校の大会準備委員である和田弘名先生と梅咲敦子先生の御協力を得つつ、準備に取りかかります。新大阪駅から約50分、近鉄難波駅から約30分、近鉄京都駅から約50分、近鉄奈良駅からは約20分の距離です。新学期早々のお忙しい時期だとは思いますが、是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。春の大和路でお会いできることを会場校準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】2000年12月20日(水)

【提出物】題目と要旨(800~1200字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2000年1月上旬(予定)

【その他】1. 時間 発表30分+質疑応答10分
(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること

シンポジウム、ワークショップなどの企画についてもアイデアをお寄せください。

開催校よりの補助を得られる可能性を考慮して、昨年より、春の運営委員会で翌年の春秋2回の大会の会場校を決定することになっております。今年度春の大会時の運営委員会で来年秋の第18回大会は中央大学多摩キャンパスで開催されることに決定されましたが、10月の大会時の運営委員会で、日時も決定致しました。第18回大会は2001年10月6日(土)に中央大学多摩キャンパスで、東支部の先生方の御協力を得つつ、新井洋一先生(同大学)を大会準備委員として開催する予定です。JR中央線立川駅乗換え、多摩モノレールで約16分です。こちらの大会にも是非ご参加ください。

4. 東支部主催の「第4回コンピュータによる英語研究の講習会」について

英語コーパス学会東支部では次の要領で「第4回コンピュータによる英語研究の講習会」を開催します。

【主催】英語コーパス学会東支部

【対象】中高大教員、学部生、院生

【内容】コンピュータ利用による英語研究: データ分析とソフト

1部 コンコーダンスラインから何が見えるか

2部 TXTANA standard の利用方法

【日時】平成12年11月25日(土) 14:00~17:30

【場所】板橋区高島平1-9-7 大東文化大学
板橋校舎 1号館402教室

【交通】東武東上線東武練馬駅よりスクールバス
都営三田線 西台駅より徒歩10分

【費用】無料

【出席の連絡先】

Fax: 03-5399-7373 (山崎宛明記)

初心者を対象にした、コンピュータを利用した英語研究の基礎講習会です。第1部では、ランカスター大学の Geoffrey Leech 教授を招き、「コンコーダンスラインから何が見えるか」というタイトルで講演と実習を行います。実際にコーパスを検索し、コンコーダンスラインに隠れている事実に言語的側面から如何に迫るかを実演してもらいます。第2部では、TXTANA standard の製作者である赤瀬川史朗氏にその検索ソフトの効果的な利用方法を実習してもらいます。多数の参加を期待します。

東支部支部長 山崎俊次（大東文化大学）

5. JAECS10周年記念事業について

JAECS が英語コーパス研究会としてスタートし、齊藤俊雄現会長（当時大阪大学）を中心に第1回の研究大会を大阪大学で開いたのは1993年4月のことでした。実際には、その前年の12月に第1回の準備会が大阪大学言語文化部で開かれております。その後、1997年4月には英語コーパス学会に改称、現在に至っておりますが、この間、初年度には60名足らずであった会員数も、賛助会員、団体会員を含めて250名を超えました。年2回開催の大会も16回を数え、現在、第17回大会の準備に入っております。年1回発行の会誌もすでに7号まで出版され、8号の編集作業の最中ですし、この*News-letter*も31号となりました。このように、JAECSは年々着実にその実績を積んできましたが、研究会の時代も含めると、再来年には10周年を迎えることとなります。そこで、この10周年を記念する事業を行ってはどうかという話が、運営委員会で話題になり、すでに*Newsletter*でもお知らせしているように何度か討議を重ねて参りました。まだ、具体的なプランはできておりませんが、10周年記念論文集の発行、学会賞の制定、日本学術会議への学会としての登録などが話題にのぼっております。

今の所、10周年の記念事業をどの時点で行うかも未定ですが、記念論文集と学会賞に関してはできるだけ早いうちに実現したいと考えております。特に、論文集に関しましては、編集の体制を整えてから発刊までに少なくとも1年間の時間的余裕が必要であろうと思われまます。そこで、会員諸氏には是非この論文集に向けて投稿頂けるよう、いまから心づもりをお願いしたいと思います。特に若い研究者諸氏にとってはまたと無い発表のチャンスです。投稿規定などに関しては、今後、運営委員会の中に10周年事業に関するワーキンググループを作り、具体案を作成、運営委員会で審議・決定の後、会員諸氏にお知らせする予定ですが、今回は、このような計画が進行中であることのみをお知らせします。日本における英語コーパス研究の10年にわたる実績を世に問うべく、質の高いものにしたいと願っておりますので、よろしくお願い致します。

6. 新入会員紹介

（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

JAECS *Newsletter* No. 30 発行以降の新入会員の方は次の通りです（11月1日現在、敬称略）

<一般会員>

大羽 良（早稲田大学S）

E-mail:

川越 栄子（神戸市看護大学）

E-mail:

豊島 実和（東京大学S）

E-mail:

水村 智子（大東文化大学S）

E-mail:

7. 名簿の訂正のお願い

（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

会員名簿の記載内容に訂正がございます。以下のようにご訂正下さい。

住所・電話番号・E-mail アドレスの変更

市川 真矢 E-mail:

佐藤 弘明 E-mail:

住所・電話番号の変更

杉森 直樹

西出 公之

所属・電話番号・E-mail アドレスの変更

鈴木三千代 E-mail:

所属・E-mail アドレスの変更

西村 道信 大手前大学

E-mail:

所属の変更

伊藤 礼子 日本橋学館大学

E-mail アドレスの変更

今井 光規

高橋 薫

田畑 智司

地村 彰之

Newsletter No. 30の本欄でベネッセコーポレーション辞典企画室の新しい住所を「163-0525 新宿区西新宿 1-26-2 新宿宇野ビル 25F」とお知らせしましたが、「新宿宇野ビル」は誤り、正しくは「新宿野村ビル」でした。お詫びすると共に訂正のほど、よろしくお願い致します。

8. 事務局から

会費納入のお願い

2000年度会費（一般5,000円、学生4,000円）未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

1999年度会費未納の方は、2000年度分と合わせてお納めください（振替用紙にその旨記しております）。行き違いになりました場合は、何とぞご容

赦ください。2年続けて会費未納の場合、*JAECs Newsletter*等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

第16回大会特別講演の録音テープの配布について

事務局では、英語コーパス学会第16回大会の特別講演、Randi Reppen 博士による“Corpus Linguistics and Language Teaching”とDouglas Biber 博士による“Corpus Linguistics and the Study of English Grammar”を記録に留める為に録音し、そのテープを保管しております。この大会に参加されなかった会員諸氏の中で、その内容に興味をお持ちの方、或いは参加された会員の中でももう一度、その内容を確認したいとお思いの方は、どちらのテープがご入用かを明記の上、事務局までご一報下さい。実費でテープをお送り致します。但し、大会報告の記事の中で触れましたように、今回はTranscript無しでの配布となります。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

FORUM

コーパス検索で最近経験した困ったこと

大東文化大学
齊藤俊雄

E-mail:

今年もコーパス言語学を教えています。最近出会ったことを皆さんの参考になればと思って書いてみます。

一つはコーパス検索のことです。まず British National Corpus の WEB ページでの検索に関する失敗例です。学生のレポートに quite a few の検索例がありました。Brown などの 100 万語のコーパスでも数例あるのに、1 億語のコーパスに SIMPLE

SEARCHでの検索で3例しかなかったという報告でした。

実際にこんなに少ないのかと思って自分で検索してみても、検索結果は3例です。しかし長年英語に親しんできたせいか、「直観」が働いて、1千万語の口語英語を含む BNC に3例しかないはずがないと確信(?)しました。そこで同僚を通じて Lancaster 大学の先生に検索をしてもらいましたら、a few はイディオムとして'a few' と引用符でくくって検索しなければならないが、その検索結果は523例で、tagging 間違いが2例あるので、525例であるとの返事でした。ところがその通りに SIMPLE SEARCH をすると、なんと801例もあるではありませんか。再度 Lancaster の先生に問い合わせると、799例であるとの返事がありました。最終的には何例が正しいのでしょうか。それはともかく、得た最大の教訓はコーパスを検索するには manual をよく見て、そのコーパスのことをよく知り、間違いのない検索をすることでしょう。

これも二人の学部学生の検索実習の時に起こった間違いですが、塚本先生の KWIC Concordance for Windows で Brown, LOB, Frown, FLOB の Category A を使って which を検索していて、二人の検索結果が合わないのです。なぜかと原因を調べたら、Brown が固定長の参照部の桁数が他のものと違いますが、一人は桁数を正しく入力し、正しい検索結果を得ていましたが、もう一人が桁数を間違えて which を w と hich に割る結果になり、間違った検索結果を得たのでした。これもコーパスの違いをよく知る必要がある例です。

もう一つの例は、Brown, LOB の tagging の間違いの問題です。よく話題になっていますから、今更取り上げるのも気が引けますが、現在両コーパスを使って修士論文を書いている二人の学生を時々悩ませています。昨年度も学部生が間違いを見つけましたが、まだ英語の読解力の十分でない学生たちは迷ってしまいます。このような間違いを連絡するところがあるのでしょうか。たくさんの方が使っているのですから、それぞれの気づいた tagging 間違いを連絡すれば、精確なものになっていくと思うのですが。